

下痢ノ爲メ心臓衰弱シ脈膊不整四肢厥冷、諸關節ノ攣縮ス。コレニ依テ觀ルニ本茸ハ胃腸障害ヲ起シ且ツ神經系統ヲ侵ス或ル毒素ヲ含有スルナラン」ト、同時ニ鈴木氏分家 B 氏一家モ同茸デ中毒セリ。

當地方デハ毒抜ノ方法デ漬ケテ貯ヘ、食用ニ供スルコトハ前述セル所デアアルガ中毒者ノ多イノハ、他ノ茸ニ遲レテ晩秋多量ニ發生スルノト外觀上無毒ラシク見エル爲メ採リテ食ヒ中毒スルノデアアル。上記中毒茸ノ何物ナルカハ私がソノ標品採集ニ約7年間ノ努力ヲ續ケテ昨年該茸ナルコトヲ決定シタ。

はきはきたけ科ノきはきはきたけニ中毒スルコトハ私が「茸類ノ研究」ニ報告シテ置イタガ又はなはきはきたけニモ中毒スルト云フ。きはきはきたけハ煮ルト酸味ガアリ、又はなはきはきたけハ煮ルト粘稠ノ液トナリ中毒スルト一般ニ言ハレテキル。學者方ノ研究ト御垂教ヲ望ム次第デアアル。

## ○みやまいらくさノ方言 あいニ就テ (松田孫治)

みやまいらくさノ嫩芽ヲ秋田縣ニ於テハ廣ク食用ニ供スル故ニ、春季ハ市場ニモ現レ一東(15 本位)ガる錢位ニ賣ラレテ居ル。當地方デハ殆ンドみやまいらくさノ名ヲ呼ブ者ガナク、短カクテ呼び易イあい・あえ・あいこ・あえこ等ノ方言デ呼稱シテ居ルノデアアル。コノ中デあいガ基本的ノモノデ他ハコレヨリ派生シタモノデアアラウト思フ。コノあいナル方言ガドウシテ出來タモノカニ就テ、水口清報(清)氏が秋田ノ植物ノ中ニ、“この草をとつてアエモノとなし食用にする故「アエノコ」から轉訛してアエー 又はアエッコ となりしか(大久保氏による)。又本縣一帯にアツーといふ場合、アエーと呼ぶ。されば盛夏の候山中でこの植物に生ぜる毒針に觸れて、突然アエーといふ叫聲をあげる故かくは名づけしものか。”ト述ベテキル。又牧野博士ハ日本植物圖鑑第 1934 圖ノ解説ノ中ニ“あるこハ多分藍草ノ意乎、其葉凋萎スレバ暗藍色ヲ呈スルヨリ云フ乎”ト述ベラレテ居ル。何レモ一理アル説ト思ハレルガ、私ハアイヌ語ト關係アルト思フノデアアル。

今其ノ書名ヲ確カニ知ツテ居ラスガ、多分、永田正方ト云フ人ノ著サレタ北海道蝦夷語地名解ト云フノデアアツタト思フ。コノ書ノ中ニアイオマナイトハイタシユナイト云フ地名ガアリ、前者ハ“蕁麻ノ澤”デ後者ハ“蕁麻ヲ取ル澤”ノ意デ、アイ・ハイハ蕁麻ノアイヌ名デ、ハハアノ變化シタモノデアアルト云フ。尙亦アイ又ハハイハ刺ヲ云フノデいばらモ斯克云ヒ、はりぎりノ如キハアイウシニト云フ由ガ記サレテ居ル。日本植物總覽ニヨルト北海道ニハ、いらくさ屬ノモノデハみやまいらくさ・ほそばいらくさ・えぞいらくさが産スルガ、蕁麻ナルいらくさハ産シナイ様デアアル。前述ノアイヌ語ノ地名ハ彼等ノ生活ニ密接ナ關係アルトコロカラ生ジタモノデアアラウ。ソレハ食用ニスルカ或ハ纖維用ニスルモノデアアラウト考ヘラレル。然リトスレバみやまいらくさハ最モ當ツテ居ル様ニ思ハレル。

秋田縣デハ能クイヲエト發音スル。例ヘバ井戸ヲエド又鳥居ヲトリエト云フ如キデアアル。從テあえハあいノ轉訛シタモノト考ヘラレル。次ニあいこ並ニあえこノコハ、コレモ亦秋田方言ノ一ツノ癖デアツテ、名詞ニヨク付ケラレルモノデアツテ、犬ヲ犬トカ草ヲ草ト

ト呼稱スル如キデアル。

### ○きはだノ方言 (松田孫治)

きはだヲ秋田縣北秋田郡デハしこのへ、山本郡デハしろこべ、全縣的ニハしこると呼ブノデアル。アイヌ語デハシケレベトカシケレベニト云フトノコトデアルガ、上記秋田縣ノ方言ハコノアイヌ語ヨリ由來シタト思ハレル。

### ○えびもノ葉ノ運動ト和名 (松田孫治)

或夏ノコト秋田縣ノ八幡平ノねむるかにはねガ生エテ居ル長沼ニ於テ、えびもヲ採集シタコトガアル。水中ヨリ出スト弱イ莖葉ヲ有スル水草ノコトデアルカラ、葉ガ莖ニ着イテ垂レ下ルノデアルガ、コレヲ再ビ水ニ入レルト葉ガ勢ヨク**ピント**莖カラ離レルノデ、2, 3回コレヲ繰返シテ見タコトガアツタ。コレハ恐ラク膨壓ニヨル現象デアルト思フガ、波ヤ流等デ動搖ノ多イ水中ニアツテハ、葉ガヨク日光ニ浴スルニハ、コンナ力ニヨツテ開イテキタ方ガ都合ガヨカラウト思ハレル。ソノ様ヲ例ヘルト、蝦ノ腹部ヲ屈曲サシタモノヲ水ニ放スト、**ピント**直ルノニヨク似テ居ル。<sup>1)</sup>牧野博士ノ大著“日本植物圖鑑”第 2666 圖 (p. 889) ノえびもノ説明ノ部分ニ“和名蝦藻ハえびノ住ム處ニ生ズル意ニテ名付ケラレシナリ。”ト述ベラレテ居ルガ、私ハ上記ノ現象カラ古人ノ命名セルモノデハナカラウト思フ。